

豊坂小学校保護者 各位

幸田町立豊坂小学校長 本多 宣子

豊坂小学校教育診断アンケート結果及び分析等について

春暖の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は本校教育にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、過日お願いをいたしました学校教育診断アンケートにつきましては、ご協力ありがとうございます。おかげをもちまして、2月13日にはその集計結果をもとに学校関係者評価委員会を開催し、委員の方から貴重なご意見を頂きました。ここに、アンケートの集計結果と委員の方から頂いたご意見をもとにした今後の学校運営のまとめをお届けしますのでご覧ください。よりよい豊坂小学校をめざして職員一同、一層の努力をしておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

A…よくあてはまる（そのように思う）	回答数	児童(4～6年)	184名
B…ややあてはまる（どちらかというとそのように思う）		保護者(全学年)延べ	359名
C…あまりあてはまらない（どちらかというとそのように思わない）	回収率	児童	98.9%
D…まったくあてはまらない（まったくそのように思わない）		保護者	95.8%

対象	番	評	価	設	問	A+B
----	---	---	---	---	---	-----

1 楽しい学校 ※ 増減は昨年度比

児童	3	学校へ来るのが楽しい。	87%
保護者	3	お子さんは、学校へ行くのを楽しみにしている。	91%

児童設問は5%、保護者設問は2%増加した。特に、保護者設問については、9割を越えたことをうれしく受け止めている。引き続きこの調査項目は最も重要と捉え、児童が学校へ通うのが楽しいと思えるように一層努力していきたい。

2 あいさつ

児童	4	元気にあいさつや返事ができる。	77%
保護者	4	お子さんは、あいさつや返事がよくできる。	83%

本年度は保護者設問は横ばいだったが、児童設問が5%減少したことをしっかり受け止めたい。代表委員会による「あいさつ運動」は継続して行っているが、十分でない状況と考えられる。あいさつは、仲間づくり、学校づくりの原点であるため、教員の指導と代表委員会の取り組みに加え、家庭との連携を図り、あいさつの定着をめざしていきたい。

3 行事

児童	5	学校の行事（運動会や学芸会など）は、楽しく積極的に参加している。	94%
保護者	5	お子さんは、運動会、学芸会、マラソン大会などの学校行事に積極的に参加している。	94%

本年度も児童・保護者設問ともに94%と高い数値となり、行事に積極的に参加していることを大変うれしく受け止めている。今後も、児童が積極的に参加できるように工夫・改善に努めたい。

4 自治活動

児童	6	委員会活動には、意欲的に楽しく参加している。	92%
児童	7	学級の係活動などに責任をもち、積極的に取り組んでいる。	92%
児童	14	自分の目標や学級のめあてをやりとげようとがんばっている。	86%
児童	15	学級に問題があったとき、みんなで協力して解決できる。	80%

委員会や学級活動といった児童の活動を支援し、自治力を伸ばすことをねらいとしてきた。本年度は児童設問15はやや減少したが、児童設問6は微増した。委員会活動に意欲的に参加すること、係活動に責任をもって取り組むことは、「生きる力」として大事なことである。これからも教員の効果的な指導・支援を工夫したい。

対象	番	評	価	設	問	A+B
----	---	---	---	---	---	-----

5 授業

児童	8	授業は分かりやすい。				88%
児童	9	授業では、進んで自分の意見や感想などを発表している。				52%
児童	10	授業では、友達の意見や感想をよく聞くようにしている。				90%
児童	13	授業のふり返りや感想、日記などに自分の思いや感想を進んで書いている。				70%
保護者	6	お子さんは、授業が分かりやすいと言っている。				87%
保護者	9	学校は、ドリルタイムや少人数指導・ティームティーチング（複数教師による指導）等により基礎学力の定着を図ろうとしている。				92%

授業について、本年度は児童設問8は4%、保護者設問6は7%増加したことをうれしく受け止めたい。児童設問9・10・13については減少した。この3つの項目「話す、聞く、書く」の言語活動の力、特に自信をもって発言できるように、指導・支援のあり方を見直し、工夫していききたい。

6 体力チャレンジ

児童	11	体力チャレンジ（すもう・なわとび・マラソン）は、積極的に取り組んでいる。				85%
保護者	7	学校は、体力チャレンジや行事、授業等を通して体力の増強と健康の増進を図っている。				97%

児童設問はわずか減少したが、保護者設問は高い数値のままを維持した。さらに、本年度から実施した週3回の5分間かけ足に、積極的に取り組むことができるように支援方法を模索したい。

7 読書とスピーチ

児童	12	読書や読み聞かせの時間は楽しい。				82%
保護者	8	学校は、読書・読み聞かせ等を重視し、豊かな心を育てようとしている。				94%

児童設問、保護者設問ともにほぼ横ばいと安定している。さらに図書委員会の読書週間や読み聞かせボランティアとの連携のもと、豊かな心を育てるために朝の活動を工夫したい。

8 自信（自己有用感）

児童	17	勉強や運動、係・委員会活動、掃除、遊びなど学校での生活のなかで、自分には自信をもっているものがある。				82%
保護者	10	先生や学校は、子どもの能力や意欲を適切に判断し認め、子どもに自信をもたせようとしている。				90%

児童設問は5%減少したが、保護者設問はわずかではあるが増加した。さらに手だてを見直し、家庭と連携して児童の自信を高める支援にあたりたい。

9 悩み・いじめ

児童	18	いやなことを言われたりされたりして、長い間なやむことはなかった。				71%
保護者	11	お子さんは、いやなことを言われたりされたりして、長い間悩むようなことはなかった。				76%
児童	16	友達のいやがることはしないように、悪口は言わないようにしている。				89%

いじめを含めた意識調査である。児童設問はわずか減少、保護者設問はほぼ横ばいであり、児童設問18と保護者設問11は8割に満たない。この結果を真摯に受け止め、一層思いやりの心を育てることに努め、児童設問18の29%の子たちに対して丁寧に対応していきたい。

対象	番	評	価	設	問	A+B
10 友達						
児童	19	自分が困ったりなやんだりしたとき、相談したり助け合ったりできる友達がいる。				88%
保護者	12	お子さんは、相談できたり協力できたりする友達が学校にしている。				77%
児童設問は増加したが、保護者設問は7%減少した。児童同士のかかわる場を意図的に設定し、温かい人間関係づくりにさらに力を入れていきたい。						
11 先生への信頼						
児童	20	自分が困ったりなやんだりした時、相談できる先生がいる。				71%
児童	21	わたしたちの気持ちを考え、がんばりを分かってくれる先生が学校にはいる。(担任の先生以外にいる場合でもよい)				81%
保護者	13	先生や学校は、いじめや問題行動に対して真剣に動いてくれる。				86%
保護者	14	先生や学校は、子どものことについて気軽に相談できる雰囲気がある。				90%
保護者	15	先生や学校は、子どもの気持ちをよく理解し、認めてくれる。				91%
昨年度増加した児童設問21と5年連続増加している保護者設問がわずかではあるが増加し、6年前と比べ約20%増加と高い評価をいただいている。しかし、児童設問20が4%減少してしまった。保護者から信頼されていることをしっかり心に留め、さらに児童が相談しやすい関係づくりに努めたい。						
12 良い関係づくり						
保護者	18	学校は、保護者や地域の人たちと良い関係づくりに努めている。				94%
本年度も微増し、9割を越える高い評価をいただいた。引き続き、保護者や地域の方々との良い関係に努めたい。						
13 安全・安心						
保護者	16	学校は、地震や風水害の場合について適切に対応し、安全・安心な学校づくりに努めている。				94%
本年度も、さらに微増した。これは避難訓練の見直しや緊急メール配信、災害時を想定した対応の保護者へ通知が評価されたと考える。今後も継続し推進していきたい。						
14 通信・お知らせ						
保護者	17	学校は、通信や授業参観等を通して学校の方針や様子がよく分かるようにしている。				93%
2年連続増加している保護者設問は横ばいの9割を越える高い評価をいただいている。本年度発行した校長室通信等にて、教育目標や方針、活動の様子などをさらに保護者へ発信し、保護者との協働体制を強化したい。						
15 その他						
保護者	19	学校から出される通知表の評価は、納得のいくものになっている。				92%
本年度も微増した。さらに、説明責任を果たせるように努めていきたい。						

アンケート結果と学校関係者評価委員会のご意見を踏まえた今後の学校運営について

① 全体

全体としては、昨年度に引き続き良い評価をいただいた。今後、さらによくするというスタンスで臨みたい。

② 楽しい学校

「学校へ来るのが楽しい」の設問でAまたはBを選択した児童は5%、保護者は2%増加した。また、「授業は分かりやすい」の児童設問は4%、「学校の行事は積極的に参加している」は1%微増した。児童が学校生活を充実していると感じる第一歩は、分かる授業であり、学校行事を楽しみに積極的に取り組むことである。今後もこの方向性を大切に、教員研修と学校行事をさらに充実させていきたい。

③ あいさつ

代表委員会が「あいさつ運動」を受け継いで活動し、教員の指導の充実も図ってきたが、本年度は「元気にあいさつや返事ができる」の設問でAまたはBを選択した保護者は横ばい、児童は5%減少した。あいさつと返事は温かい人間関係づくりに欠かせない生活習慣の基本である。さらに、代表委員会の啓発活動と教師の指導のあり方を見直すとともに、家庭との連携を図り、あいさつへの意識を高めていきたい。

④ 教師への信頼関係

児童と教師との温かい信頼関係は、学校教育の底辺を支えるものである。昨年度9%増加した児童設問「相談できる先生がいる」は4%減少したが、「私を分かってくれる先生がいる」は昨年度に引き続き微増した。保護者設問もわずかではあるが増加し、2つの設問において9割を越えた。このように保護者の教師への信頼が安定していることをうれしく受け止め、児童が相談しやすい状況をさらに工夫していきたい。

⑤ 自信（自己有用感）

「自分には自信をもっているものがある」という設問でAまたはBを選択した児童の割合が本年度は5%減少したが、保護者の「先生や学校は、子どもの能力や意欲を適切に判断し認め、子どもに自信をもたせようとしている」の設問は2%増えて9割となった。保護者設問は4年連続増えていることをうれしく受け止め、今後も家庭の協力を得ながら、児童の自信（自己有用感）を高める支援を工夫していきたい。

⑥ 自治活動

自分たちの生活を自分たちでよくしていくという姿勢は、社会生活の基礎となるものである。全ての学年が発達段階に応じた学級活動を行い、4年生以上はさらに児童会活動（委員会活動）を行っている。本年度は、この取り組みに関する児童設問「委員会活動には積極的に参加している」が2%増加した。しかし、「学級に問題があったとき、みんなで協力して解決できる」の設問は3%減少した。仲間と協力して解決する自治力は児童に身につけさせたい大事な力であるので、さらに手だてを工夫していきたい。